

令和5年度学校推薦型選抜Ⅰ

一般推薦

小論文

農学部 農業経済学科

令和4年11月23日（水）実施

10時00分～11時30分

開始前に以下の注意事項をよく読んでおくこと。

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 「受験番号」は、解答用紙の受験番号欄に忘れずに記入すること。
3. この問題冊子には、問1、問2、問3の3つの設問がある。
乱丁、落丁、印刷不鮮明の箇所があった場合には、申し出ること。
4. 解答は、必ず解答用紙の所定の解答欄に記入すること。
所定の欄以外に記入したものは、無効である。

問題 次の文章は、斎藤修「少子化は歴史抜きには語れない」の第2節と第3節を引用したものです。

第1節で著者は、日本の少子化が近現代にどう進んだかを述べています。そこでは、夫婦の平均出生数は幕末から緩やかに増加し、第1次大戦後の5人強が歴史的にピークであったとみられること、敗戦直後にベビーブームがあったが、敗戦後の生活難を背景に、妊娠中絶合法化が引き金となって少子化が始まり、1952年には3人を割り、57年には2人の水準になったこと、つまり政府の明示的な人口抑制政策なしに平均出生数転換が実現したこと、70年代以降は晩婚・未婚化と晩産化の相乗作用が少子化と超少子化をおしすすめてきたことなどが述べられています。

この第1節に続く引用文を読んで、問1、問2、問3に答えなさい。なお、引用にあたって原文の縦書きは横書きとし、漢数字は算用数字に改めました。

この部分は、著作権の都合上、公開できません。

この部分は、著作権の都合上、公開できません。

この部分は、著作権の都合上、公開できません。

この部分は、著作権の都合上、公開できません。

この部分は、著作権の都合上、公開できません。

出典 齋藤修「少子化は歴史抜きには語れない」南塚信吾・小谷汪之・木畑洋一編『歴史はなぜ必要なのか』2022年、岩波書店。

注

- 1) 【人口置換水準：ちかん/おきかえ】そのままゆけば人口が増えも減りもしない水準。その値は死亡率水準に依存するが、先進国では2.1を少し下回るのが普通である（齋藤）。
- 2) 【アジア通貨危機】1997年7月以降、タイを震源として始まったアジア各国通貨の大幅な下落（減価）現象。
- 3) 【截然：せつぜん】区別がはっきりしたさま。
- 4) 【紐帯：ちゅうたい】社会の構成員を結びつけて、社会をつくりあげている条件。
- 5) 【説明変数】社会的、経済的な現象の因果関係の原因として想定される変数。

問1 (20点)

中国、韓国、インドの人口・出生率の推移と政府の関与について、300字以内で説明しなさい。

問2 (40点)

著者はヨーロッパ圏での少子化をめぐる要因として、個人主義対権威主義の軸、家族紐帯の弱さと強さという軸、ジェンダーにかんする平等と不平等の軸という3つの軸を紹介しています。このうち1つの軸を取り上げて、その軸が出生率にどう影響すると思うか。あなたの考えを400字以内で述べなさい。

問3 (40点)

この論文を踏まえて、日本の少子化対策として有効だと思うことを400字以内で述べなさい。